

登録コード	J5914300	開講年度	2026				
授業科目	経済学基礎特別講義（データ起点の企画提案）				担当教員	縁山 大輔	
英文授業名	Data-Based Proposal Planning				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学年	(20カリ対象科目) 経：3年
講義室	経法401演習室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	経法20加・応用経済						
	【2019年度以前カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、リスク評価、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				⇔	専門知識を応用・実践する力として、関連する分野であるマーケティング・統計的分析手法の応用方法を把握し、企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。	
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				⇔	専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、経済分析をテーマとする専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。	
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				⇔	専門領域での基礎知識として、また問題解決に実践する力として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を現実の社会問題に適用して解決策を導く能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	この授業では、実際のマーケティング課題をテーマにデータ分析を行い、企画提案を行うPBL（問題解決学習）を採用します。テーマは「大学生が利用したくなる就活支援サービスの提案」で、学生を対象にインターネット調査で収集した実データを使用します。これまでに学んだマーケティングや統計学・データ分析の実践的な応用とともに、実社会の課題解決に自信を持って取り組む力を養うことを目指しています。 本授業では与えられるデータに限らず、目的にあわせてデータを収集・統合するステップも含め、以下のステップに沿って進めます。 1. データ活用計画 2. データ取得・クレンジング 3. データ統合 4. データ集計・アウトプット共有 5. データ分析・意思決定 それぞれのステップで実務的な知識や経験から得た教訓を紹介します。 さらに、実社会で働くイメージを持ちやすいように、チームでの演習、中間レビューの実施、実務者の仕事紹介なども取り入れます。PBLのテーマ及びデータセットは株式会社インテージテクノスフィアより提供を受け、社員が講師を担当します。アンケート調査やデータ分析、システム開発、研究開発・事業開発などの実務経験を活かした内容を提供します。						
(5)授業計画	毎回の授業内で課題を提示します。遠隔授業を取り入れ、遠隔授業（オンラインミーティング）7回、面接授業8回を予定しています（回ごとの面接／遠隔は変更になる場合があります。）。第16回 合同成果発表会については、(7)履修上の注意を参照してください。 第1回 ガイダンス（面接） 第2回 データ活用計画の策定（オンライン） 第3回 データ取得・クレンジング（面接） 第4回 データ統合（オンライン） 第5回 データ集計（面接） 第6回 データ可視化（オンライン） 第7回 データ分析（面接） 第8回 中間レビューに向けたワーク（オンライン） 第9回 中間レビュー（面接） 第10回 フレームワーク・意思決定（オンライン） 第11回 生成AIによるデータ分析トライアル（面接） 第12回 企画書作成・プレゼンテーション（オンライン） 第13回 成果発表に向けたワーク（面接） 第14回 成果発表（オンライン） 第15回 成果発表フィードバック・データ活用計画の振り返り・アンケートの回答（面接） 第16回 合同成果発表会						
(6)成績評価の方法	・チームでのプレゼンテーション50点（受講者による相互評価20点、教員による評価30点、グループワークへの消極的な参加に関してはフリーライダー減点を適用する場合があります。） ・受講者個々の成果物（データ分析の結果含むプレスリリース形式の企画書）50点 ・合計：100点で評価します。						

(7)成績評価の基準	マーケティングで利用されるフレームワークを理解してデータ分析・プレゼンテーションを行えば「水準にある」、顧客の観点で有意義な提案であれば「やや上にある」、顧客の観点で課題を定量的に評価できており、継続して検討する価値がある提案であれば「かなり上にある」、顧客の観点で課題解決に即効性や将来性がありすぐにでも採用し得る提案であれば「卓越している」
(8)事前事後学習の内容	【事前学習】統計解析ソフトの基本的な操作の習得、自身をペルソナとしたカスタマージャーニーマップの作製 【事後学習】PBLのテーマに関する文献調査、データ取得～分析、プレゼンテーションの準備、企画書の作成
(9)履修上の注意	・グループワークが中心となるため、出席と積極的な関与が求められます。 ・ノートPCとヘッドセットまたはイヤフォンを必ず持参してください。 ・授業内で利用するソフトウェアやサービスは、利用する直前の授業で案内します。授業当日までに利用できる環境を整えてください。 ・統計解析に用いるソフトウェアの指定はありませんが、Rで記述したサンプルコードを配布します。まったくの未経験者は、受講者向けのオンライン講座「Rで学ぶ統計基礎講座」などを利用して自習することが望ましいです。 ・プログラミングの経験は問いません。授業の中で一緒にプログラムを書くペアプログラミングを実施します。 ・統計学、ソフトウェアを用いたデータ分析、マーケティングを履修済みであることが望ましいです。 ・授業の時間外で希望者を募り、株式会社インテージテクノスフィア（長野事業所）のオフィス見学・データに関わる仕事紹介を開催します。 ・授業を代表していくつかのチームに、ShinXiaが主催する合同成果報告会（開催時期未定）もしくは株式会社インテージテクノスフィアが主催する、他校合同の成果報告会（例年翌3月開催）にて発表していただきます。 ・面接授業は松本キャンパスで行いますが、ShinXiaコースに登録する学生のうち、信州大学経済学部以外の学生はオンラインで参加することが可能です。
(10)質問,相談への対応	メールにて受け付けます。メールアドレスは初回の授業で公開します。
【教科書】	なし
【参考書】	江崎貴裕『分析者のためのデータ解釈学入門 データの本質をとらえる技術』ソシム